

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度村学力調査から、全国平均を下回る結果だった。特に「書くこと」の領域では、全国平均から10%下回った。問題別で見ると、「ことばの学習」「物語を読み取る」「説明文を読み取る」「文章を書く」について、全国平均から5%～10%下回っている。そのため、相手の話をよく聞いて理解し、それに対して自分の考えや思いを適切に話す力を高めていく必要がある。</li> </ul>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時間を確保して、漢字の習得や国語辞書を使う機会を学級全体で取り組む。</li> <li>作文や日記指導を定期的に設け、書く機会を増やす。</li> <li>物語文や説明文の学習時における読前後の感想文の交流機会を設ける。また、教科書教材と関連させて本や文章を読むことを位置付ける並行読書をすすめていく。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p><b>【基礎基本が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から辞書を引かせたり、多読させたりする習慣を身に付けさせる。</li> </ul> <p><b>【活用が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを説明したり書いたりする機会をさらに増やす。</li> <li>分からない言葉を国語辞書で引かせてノートに書かせる。ノートを提出させ確認をする。</li> <li>初発の感想、学習後の感想は必ず書かせ、交流機会を設け確認する。</li> </ul>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①教師が教科書を範読した時に、文章内で児童が分からない言葉を挙げさせて、国語辞典で調べさせたり、その場で教師が意味を伝えたりして、児童が言葉に関して理解を深められるようにする。</p> <p>②読解力を身に付ける。語彙力を伸ばすために多読し、要約する習慣を付ける。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①児童のノートを回収し、意味調べの意味が合っているか確認をする。単元テストの「言葉」の得点平均、50点満点中40点以上を目指す。</p> <p>②週に1回の図書の時間に、読書カードに話の要約と感想を書かせる。1年間で30冊の要約を目指す。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①教師が教科書を範読した時に、文章内で児童が分からない言葉を挙げさせて、国語辞典で調べさせたり、その場で教師が意味を伝えたりして、児童が言葉に関して理解を深められるようにする。</p> <p>②読解力を身に付ける。語彙力を伸ばすために多読し、要約する習慣を付ける。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①児童のノートを回収し、意味調べの意味が合っているか確認をする。単元テストの「言葉」の得点平均、50点満点中40点以上を目指す。</p> <p>②週に1回の図書の時間に、読書カードに話の要約と感想を書かせる。1年間で30冊の要約を目指す。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①教師が教科書を範読した時に、文章内で児童が分からない言葉を挙げさせて、国語辞典で調べさせたり、その場で教師が意味を伝えたりして、児童が言葉に関して理解を深められるようにする。</p> <p>②読解力を身に付ける。語彙力を伸ばすために多読し、要約する習慣を付ける。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①児童のノートを回収し、意味調べの意味が合っているか確認をする。単元テストの「言葉」の得点平均、50点満点中40点以上を目指す。</p> <p>②週に1回の図書の時間に、読書カードに話の要約と感想を書かせる。1年間で30冊の要約を目指す。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>＜成果＞</p> <p>教師の範読後、児童が文章内で分からない言葉を挙げ、国語辞典で調べ、言葉の意味を理解したことで、文章の読解力が高まった。</p> <p>＜課題＞</p> <p>調べた言葉を記録できる「意味調べ帳」を作ると、覚えた言葉が蓄積していき、分からない時にふりかえることができるのでよいと感じた。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ことばの学習」「物語を読み取る」「説明文を読み取る」「文章を書く」それぞれの力を高めるためには、多くの本と出会い、多読させる時間を確保することが大切だと感じた。</li> <li>文章を書く場面では、助詞の間違い「を・は・に」があるため、机間指導で直したり、スキルタイムの時間を使って、年間を通して指導していく必要がある。また、文章を書いた後にその文章を音読させ、児童自身が間違いに気付けるように指導することが必要である。</li> </ul>		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>思ったことや伝えたいことを、相手に伝わりやすく書くことができる児童</p>			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小笠原村に関連することだけに限定せずに、一般的な社会的事象への興味・関心、知識・技能を高める必要がある。</li> <li>・社会科における学び方、問題解決的な学習を理解する必要がある。</li> </ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はじめに時間をとって、地図帳を使っての日本や世界の都市、地名、名称などの学習を取り入れ、一般的な社会的事象に対して興味・関心を誘う。</li> <li>・全単元のはじめに、学習問題を考え提示し、それを解決するために学習をすすめていくことを定着させる。</li> <li>・私たちの住む小笠原村の学習を中心に行うが、発展的に内地の様々な地域の様子も紹介する。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p><b>【基礎基本が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入で前時のおさらいをする。</li> <li>・地図帳や教科書の活用の機会を設ける。</li> <li>・ノートやICT機器の活用方法の提示。自分で調べまとめ解決する学習方法の定着を図る。</li> <li>・単元ごとにノートを回収し、学習状況を把握する。</li> </ul> <p><b>【活用が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が必要に応じてICT教材やドリルパーク、プリントなどで既習を振り返り、教材を活用しているかを確認する。</li> </ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①ニュースにふれる習慣をつけて、世の中についての理解を深め、知的好奇心を育む。</p> <p>②児童の素朴な疑問を大切に、諸資料や調査活動などを通して調べ、思考・判断・表現する。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①2学期から週末にデジタル新聞を児童に渡し、朝の日直のスピーチで取り上げさせる。</p> <p>②2学期からグループ発表を行うとともに、単元の終末に、「どんな力が身に付いたか」振り返りをする。単元テストの平均点80点以上を目指す。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>&lt;成果&gt;</p> <p>年間を通して、こども新聞の記事や、時事ニュースを児童に紹介したことで、世の中に興味を示す児童が増えた。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>時事ニュースと、社会で学んだ知識を、児童自身がつなげることは、まだ難しい。社会科見学で施設を見学しても、記憶に残っていない児童も多い。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のはじめは、町歩きを多く取り入れたい。仲間と歩き、観察することで、他者と協力し、分担し、話し合うことの必要性も指導したい。</li> <li>・地図記号や方位、地図帳の調べ方や、資料の読み取り方などの、基礎的なことは年間を通して指導する。</li> </ul>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>社会的な見方や考え方はたらかせることができる児童</p>	

**〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 算数科〉**

**1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題**

- ・令和6年度学力調査では、「データの活用」領域は全校平均を上回っていたものの、「数と計算」「図形」「測定」領域では課題が見られた。
- ・「はこの形」の誤答内容を分析したところ、展開図や棒を、立体に組み立てるイメージの難しさがある。空間認識能力を高める必要がある。
- ・結合法則や不等号の意味といった知識を定着させる必要がある。

**2. 課題改善に向けた取組状況**

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ブロックを使い、具体的操作を取り入れ、数の合成、分解を繰り返し行い、数の感覚を養う。
- ・ブロックを使った操作活動や問題文を絵でかき表したり、図で表したり、問題場面を具体的にイメージさせる活動を多く取り入れたりしながら、問題解決へつなげていく。
- ・文章問題の中のキーワード「ぜんぶで」「あわせて」「のこりは」などに着目させる。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

**【基礎基本が必要な児童への手立て】**

- ・具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。例えば立体の展開図ならば、工作用紙を使って実際に切って組み立てる。距離感を養うために、実際に学校の近所を1km歩いてみて、長さや単位の測定を想像ではなく実感できるようにする。

**【活用が必要な児童への手立て】**

- ・ICT教材によるクイズ形式での振り返りや、自作問題作りなどを通して、児童が主体的に算数の学習に取り組み、学んだことを覚え、活かしたいと思える授業を行う。

**3. 課題の改善に向けた方策と検証方法**

＜方策＞

- ①具体物を操作したり体験したりすることで「わかる」を体感できるような授業を行う。
- ②ペア学習やグループ学習を通して、友達に分かったことを自分の言葉で伝え、知識の定着を図る。

＜検証方法＞

- ①毎単元に一時間は、具体物の操作やグループ学習を取り入れ、学んだ知識や技能の定着を図る。
- ②ワークテストの知識と技能面で正答率8割を目標とする。2学期末までには思考を含めた3観点で正答率8割に到達させる。8割に到達していれば、概ね学習内容が身についたと考えられる。

**4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】**

＜成果＞

既習事項を基に、自分の考えをノートにまとめ、友達に伝えることができた。

＜課題＞

計算ミスやコンパスの線が正確に描けないなど、技能面には課題がある。

**5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**

- ・自分の考えたことを友達に伝えたり、友達の言っていることをよく聞き理解したりといった、話し合いや交流がより活発になるとよい。
- ・計算や作図は反復練習を行い、技能を高める。

**6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】**

- ・話し合い活動を通して、皆で解を導き出せる。
- ・基礎学力の向上

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科における学び方、問題解決的な学習を理解する。</li> <li>・小笠原に関連する地域教材だけでなく、一般的な理科的事象への興味・関心、知識・技能を高める必要がある。</li> </ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての単元において、特に実験領域では、理科における学び方、問題解決型の学習習慣を身に付けさせる。</li> <li>・実物を観察したり、実験をしたりできない教材については、ICT機器を使っての学習補充を行う。</li> <li>・単元ごとにドリル的な学習を取り入れる。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p><b>【基礎基本が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業、ノート指導で理科における学び方、問題解決型の学習習慣を図る。</li> <li>・ICT機器を使って、視覚的に学習内容の確認を行う。</li> <li>・単元ごとにノートを回収し、学習状況を把握する。</li> <li>・単元学習後のテストにおける平均点を分析する。また、解き直しの徹底を図る。</li> </ul> <p><b>【活用が必要な児童への手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想を考えるとときに、既習事項や生活経験を根拠に考えられるようにする。</li> <li>・実験や観察の結果をもとに、問題と結び付けて結論を自分の言葉で考えられるようにする。</li> </ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①教材は自分たちで用意させ、生き物は責任をもって世話をさせる。また、観察する時間を十分に確保する。</p> <p>②児童の素朴な疑問を大切に、観察や諸資料、調査活動などを通して調べ、問題解決能力を育てる。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①4月から観察カードに、気付き・疑問・感想を毎回書かせ。また、実験時に観察器具を適切に使っているか見る。知識・技能の観点で、単元テストの平均点80点以上を目指す。</p> <p>②単元の終わりにグループ発表を行う。2学期末までには思考を含めた3観点で、単元テストの平均点80点以上を目指す。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>&lt;成果&gt;</p> <p>ほとんどの児童が目標を達成できた。実験で出た疑問を、次の課題として設定し、意欲を持ちながら活動に取り組むことができた。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>実験器具の扱い方を忘れてしまう児童が多い。</p>	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <b>【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の実験器具(ルーペ・温度計・電子計り、天秤)の使い方を確実に理解できるよう指導する。</li> <li>・実験結果や観察中のものを、ICT端末で記録できるよう児童に指導しておく。</li> </ul>
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <b>【年度末に記入する】</b></p> <p>自然の事物・事象について、科学的な見方や考え方ができる児童。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 音楽科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業</b>を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。</li> <li>・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。</li> <li>・ハ長調の五線譜を見て歌ったり演奏したりする知識及び技能に課題がある。</li> <li>・器楽の適切な演奏の仕方の定着に、丁寧な指導を要する児童が見られる。</li> </ul>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵譜などを用いて曲想の感じ取りを深めたり、それを生かした表現をしたりすることができるようにする。</li> <li>・一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行う。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <p><b>【基礎基本が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握するとともに、その場でフィードバックを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。</li> <li>・ICT 機器及び教材を用いて、基礎的な知識の定着を図る。</li> <li>・器楽奏の仕方を毎回確認し、正しい演奏法の定着を図る。</li> </ul> <p><b>【活用が必要な児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜を見て歌う、楽譜を見て聴く習慣を定着させ、音楽の構造と楽譜の構造が結びつくようにする。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①歌唱や器楽に必要な基礎的な知識・技能の定着を図る。ICT 機器及び教材の活用や、楽譜を見て学ぶ学習を通して、指導と記録をする。</p> <p>②範唱（範奏）と模唱（模奏）を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①一人一人の正答率や、行動観察・演奏聴取を通して、児童の変容を記録し、指導を検証する。適切な演奏法や読譜力の定着率は7割を目指す。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切なリズムと音程で表現できることを目指す。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①歌唱や器楽に必要な基礎的な知識・技能の定着を図る。ICT 機器及び教材の活用や、楽譜を見て学ぶ学習を通して、指導と記録をする。</p> <p>②範唱（範奏）と模唱（模奏）を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①一人一人の正答率や、行動観察・演奏聴取を通して、児童の変容を記録し、指導を検証する。適切な演奏法や読譜力の定着率は7割を目指す。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切なリズムと音程で表現できることを目指す。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①歌唱や器楽に必要な基礎的な知識・技能の定着を図る。ICT 機器及び教材の活用や、楽譜を見て学ぶ学習を通して、指導と記録をする。</p> <p>②範唱（範奏）と模唱（模奏）を繰り返す活動を増やし、演奏聴取をその後の指導に生かす。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①一人一人の正答率や、行動観察・演奏聴取を通して、児童の変容を記録し、指導を検証する。適切な演奏法や読譜力の定着率は7割を目指す。</p> <p>②個別または少人数の演奏聴取によって児童の表現技能の達成度や課題を細かく記録し、指導を検証する。7割の児童が適切なリズムと音程で表現できることを目指す。</p>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なリーダーの演奏法については、7割以上の児童への定着が見られた。</li> <li>・正しいリズムや音程で表現する技能が身に付いた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童によって読譜力の定着に差があり、特に音価についての指導を充実させていく必要がある。</li> </ul>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範唱（範奏）と模唱（模奏）を反復させることで、読譜をより効果的に行うことができる。</li> <li>・読譜指導については、ICT などを用いた継続的な取り組みが必要である。常時的に家庭などで活用できる教材を研究する必要がある。</li> </ul>		
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</b></p> <p>表現の知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい表現を工夫することのできる児童</p>			

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 図画工作科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生では材料に加えて、場所からも発想して活動を思い付くこともできるようになってくる。また、平面的な活動から切ったり、組み合わせたりといった構成的な要素を意識できるよう活動に取り組むようにする。</li> <li>・道具や材料の基本的な使い方をしっかりと理解するとともに、表し方をさらに工夫する力を高める。</li> <li>・一つの発想方法や考え方だけでなく、様々な方法があることに気付き、意欲的に楽しんで試せるようにする。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けた技能を繰り返し使える機会を増やし、定着を図る。</li> <li>・工夫している児童の作品、様々な参考作品や考え方などを紹介する。</li> <li>・材料や道具などの使い方や工夫できるところや組み合わせることができることなどを確認する。</li> <li>・アイデアスケッチ、ワークシートなどを活用してアイデアを広げる。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や道具などの使い方を掲示や ICT 機器を活用して確認する。</li> <li>・児童作品を紹介したり、幅広く材料や道具などを選べる題材などを設定したりして、自分なりに考えたり、選んだりする活動を増やす。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行う。</li> <li>② 自分なりに考えたり、選んだりする場面を増やして、自分で作り出す力を高める。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 児童や作品の観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、活動につまずきがないようにする。 1学期に基本的な技能を観察し、以降支援が必要な児童には適宜支援を行っていく。</li> <li>② 児童や作品の観察。そのような場面の時に全児童がある程度自分のつくりたいものに合わせて、自分で考えたり、選べたりできるようにする。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な材料や道具の扱い方を掲示や ICT を活用することにより正しく扱うことができていた。</li> <li>・自分なりに考えたり、選んだりすることはできていた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でさらに工夫したり、発想したりしてつくり出す力をさらに高めたい。</li> </ul>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる基本的な材料や道具の扱い方の定着のために掲示や ICT などを活用して取り組んでいく。</li> <li>・ねらいや目的などを意識させながら、活動に取り組んだり、材料や道具を扱ったりできるように導入や説明を行う。</li> </ul>
<p><b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</b></p> <p>自分で考えたり、感じたりして豊かに表現や工夫する力のある児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 体育科〉

<p><b>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が基本的な動作や運動の技能を身に付けるように、運動の目的や方法を理解させるとともに、繰り返しの練習の時間を確保する。</li> <li>・単に運動を行うだけでなく、児童が自分の動きを理解し、修正するためのフィードバックを行う。</li> <li>・技能を高める場面で運動に対する興味や意欲を持続させることが課題である。</li> </ul>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの領域でも「楽しい」と思える運動、活動を必ず入れる。</li> <li>・自己評価と他者評価を1時間の授業のふりかえりとして行う。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が「わかる」だけでなく「できる」を実感するまでには時間がかかるため、途中で意欲を失わないよう、ゲーム形式や仲間との協力・競争など、楽しさを取り入れた指導を行っている。また、達成度に応じた褒める場面を設け、児童の自信を育てている。</li> <li>・教師が個々の動きを観察し、具体的な改善点をフィードバックしている。また、児童自身が自分の運動を振り返り、改善点を見付けるための時間を設けている。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈方策〉</p> <p>①運動能力にばらつきが大きいので、基礎的な動きや簡単な運動を中心に、補助具を使用してサポートする。グループごとの目標は、楽しさや達成感を重視した簡単なものに設定し、基本的な動きに慣れることを目指す。</p> <p>②短い時間で達成可能な小さな目標を設定し、成功体験を積み重ねる。フィードバックはシンプルでわかりやすい言葉を用い、児童が理解しやすいよう視覚的なサイン（シールやスタンプ）を使って具体的な改善点を示す。</p> <p>③ゲームを通じて自然に運動する楽しさを感じられるよう、ルールの簡単なゲームを導入し、競争よりも協力を重視する。努力や参加する姿勢を褒めることに重点を置き、児童の自信を育む評価システムを活用する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈検証方法〉</p> <p>①児童の運動能力向上の変化を定期的に記録し、各児童が設定された目標を達成できたかを評価する。また、授業後のアンケートを通じて児童の満足度や自己評価を分析する。</p> <p>②児童の成功体験の頻度と、それに対する自己評価を授業後のフィードバックシートで確認する。さらに、定期的な技術テストやパフォーマンスの変化を観察する。</p> <p>③授業中の参加率や積極性の観察、アンケートや口頭でのフィードバックを通じて児童の意欲や楽しさを感じているかを評価する。</p> </td> </tr> </table>		<p>〈方策〉</p> <p>①運動能力にばらつきが大きいので、基礎的な動きや簡単な運動を中心に、補助具を使用してサポートする。グループごとの目標は、楽しさや達成感を重視した簡単なものに設定し、基本的な動きに慣れることを目指す。</p> <p>②短い時間で達成可能な小さな目標を設定し、成功体験を積み重ねる。フィードバックはシンプルでわかりやすい言葉を用い、児童が理解しやすいよう視覚的なサイン（シールやスタンプ）を使って具体的な改善点を示す。</p> <p>③ゲームを通じて自然に運動する楽しさを感じられるよう、ルールの簡単なゲームを導入し、競争よりも協力を重視する。努力や参加する姿勢を褒めることに重点を置き、児童の自信を育む評価システムを活用する。</p>	<p>〈検証方法〉</p> <p>①児童の運動能力向上の変化を定期的に記録し、各児童が設定された目標を達成できたかを評価する。また、授業後のアンケートを通じて児童の満足度や自己評価を分析する。</p> <p>②児童の成功体験の頻度と、それに対する自己評価を授業後のフィードバックシートで確認する。さらに、定期的な技術テストやパフォーマンスの変化を観察する。</p> <p>③授業中の参加率や積極性の観察、アンケートや口頭でのフィードバックを通じて児童の意欲や楽しさを感じているかを評価する。</p>
<p>〈方策〉</p> <p>①運動能力にばらつきが大きいので、基礎的な動きや簡単な運動を中心に、補助具を使用してサポートする。グループごとの目標は、楽しさや達成感を重視した簡単なものに設定し、基本的な動きに慣れることを目指す。</p> <p>②短い時間で達成可能な小さな目標を設定し、成功体験を積み重ねる。フィードバックはシンプルでわかりやすい言葉を用い、児童が理解しやすいよう視覚的なサイン（シールやスタンプ）を使って具体的な改善点を示す。</p> <p>③ゲームを通じて自然に運動する楽しさを感じられるよう、ルールの簡単なゲームを導入し、競争よりも協力を重視する。努力や参加する姿勢を褒めることに重点を置き、児童の自信を育む評価システムを活用する。</p>	<p>〈検証方法〉</p> <p>①児童の運動能力向上の変化を定期的に記録し、各児童が設定された目標を達成できたかを評価する。また、授業後のアンケートを通じて児童の満足度や自己評価を分析する。</p> <p>②児童の成功体験の頻度と、それに対する自己評価を授業後のフィードバックシートで確認する。さらに、定期的な技術テストやパフォーマンスの変化を観察する。</p> <p>③授業中の参加率や積極性の観察、アンケートや口頭でのフィードバックを通じて児童の意欲や楽しさを感じているかを評価する。</p>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</b></p> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム形式の導入や協力を重視した活動により、運動に対する楽しさを感じる児童が増え、授業への参加意欲が向上した。</li> <li>・短い時間で達成可能な目標を設定したことで、児童が小さな成功体験を積み重ね、自信を持つ姿が見られた。</li> <li>・シールやスタンプを用いたフィードバックが視覚的にわかりやすく、児童自身が動きの改善点を意識する機会が増えた。</li> <li>・補助具の活用により、運動が苦手な児童も基本的な動きを身につけやすくなり、運動への抵抗感が軽減された。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の運動能力のばらつきが大きく、全員が適切な負荷で取り組めるよう、さらに個別対応の工夫が必要である。</li> <li>・成功体験を積み重ねる工夫をしているものの、継続的な意欲につながらない児童もいるため、より個別に応じた動機付けの方法を模索する必要がある。</li> <li>・自己評価や振り返りの時間を確保しているが、一部の児童がフィードバックを十分に理解・活用できていないため、より具体的で実践しやすい振り返り方</li> </ul>	<p><b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の運動能力の個人差に応じて、活動のレベルを柔軟に調整し、一人ひとりが「できた！」と実感できる環境を作る。</li> <li>・ゲーム性を重視しながらも、基本的な動作やフォームを意識する時間を確保し、技能向上につなげる。</li> <li>・自己評価の方法を工夫し、児童が自分の成長を実感しやすいように具体的な振り返りシートや映像記録を活用する。</li> <li>・授業内で児童同士の協力を促し、お互いに学び合う機会を増やすことで、指導者だけでなく仲間からのフィードバックも取り入れる。</li> </ul>		

法の工夫が求められる。	
<b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に対して前向きに取り組み、楽しさを感じながら継続的に努力できるようになっている。</li> <li>・基本的な運動技能が向上し、自分の動きを意識しながら適切に修正する力が身についている。</li> <li>・仲間と協力しながら運動することの大切さを理解し、積極的にコミュニケーションを取れるようになっている。</li> <li>・自己評価を通じて、自分の成長を実感し、運動への意欲を維持できるようになっている。</li> </ul>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 道徳科〉

<b>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材、資料から、その道徳的価値について、自分事として深く考えられる力を身に付ける。</li> <li>・考えたことを実践、実行する力を身に付ける。</li> </ul>			
<b>2. 課題改善に向けた取組状況</b> (1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と児童の1対1の問答にならないよう、児童同士、学級全体で話し合える場を多く設定する。</li> <li>・動作化や役割演技を取り入れる中で、道徳的価値を自分事としてとらえる機会を多くもつ。</li> <li>・毎時間、学習を振り返る時間をつくり、その授業の道徳的価値を自分事として理解する。</li> </ul> (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材提示、板書を工夫しながら授業のねらいが視覚的に捉えられるようにする。</li> <li>・「なぜ」「どうして」「自分だったらどうするの」を問答しながら、みんなで考えていく。</li> <li>・毎時間必ずワークシートを使って児童の思いや考えを確認する。</li> <li>・日頃の生活の中で、道徳の授業内で学んだ道徳的価値について、振り返り、確認をする。</li> </ul>			
<b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> &lt;方策&gt;  ①文章をグループで音読し、自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりして、自分の考えを広げ深める。  ②毎時間同じ学習展開を行い、自分の変容が感じられるようにする。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> &lt;検証方法&gt;  ①グループで話し合い、友達の考えを記録させたり、それに対する自分の考えを書かせたりして、発表させる。  ②道徳カードの記載に、話の要約を書かせ、「自分だったらどうするか」を書かせる。 </td> </tr> </table>		<方策> ①文章をグループで音読し、自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりして、自分の考えを広げ深める。 ②毎時間同じ学習展開を行い、自分の変容が感じられるようにする。	<検証方法> ①グループで話し合い、友達の考えを記録させたり、それに対する自分の考えを書かせたりして、発表させる。 ②道徳カードの記載に、話の要約を書かせ、「自分だったらどうするか」を書かせる。
<方策> ①文章をグループで音読し、自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりして、自分の考えを広げ深める。 ②毎時間同じ学習展開を行い、自分の変容が感じられるようにする。	<検証方法> ①グループで話し合い、友達の考えを記録させたり、それに対する自分の考えを書かせたりして、発表させる。 ②道徳カードの記載に、話の要約を書かせ、「自分だったらどうするか」を書かせる。		
<b>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</b> <成果> ほとんどの児童が目標を達成できたと言える。毎時間必ずワークシートを使って、児童自身と友達の考えを書かせたことで、自分以外の人の見方やものへの考え方を理解することができた。 <課題> 日常生活の中で、道徳で学んだこと(あいさつ・公共のマナーを守ること・仲間外れにしない)を生かすことができない児童もいる。	<b>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の家庭環境や、人間関係によっては、取り上げる内容に留意したい。</li> <li>・生活経験の少ない児童が場面を想像しやすいように、役割演技をさせたり、補助資料を用意する。</li> </ul>		
<b>6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</b> 自分とは違う意見や立場を理解できる児童			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和6年度第3学年 総合的な学習の時間〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・小笠原独自の自然、文化、伝統を学び、その大切さを理解し、継承していこうとする気持ちを養う。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容

- ・探究的な学習過程を通して、自分自身で情報を取捨選択し、整理できるようにする。
- ・次世代につながるように自ら進んでまとめていく。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・学習ゴールを提示し、それに向かって自分自身や友達同士で、探求し情報を整理しまとめていく。
- ・毎時間、学習の振り返りを行う。
- ・ワークシートを活用しながら、自分で考えたことを随時まとめポートフォリオ化していく。
- ・自分たちが学んできたことを下級生や保護者に伝える活動を通して学びの確認をする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①他班と活発に情報交換できるようにする。また、話しながら大切なことをメモする技能を高める。

- ①自分たちが単元を通して深めてきたものを、アウトプットできる活動計画を考える。

＜検証方法＞

- ①ジャムボード交流、ワールドカフェ方式など、さまざまな形態で話し合ったことを総合ノートに記録する。

- ②グループ発表を行うとともに、単元の終末に、「どんな力が身に付いたか」振り返りをする。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

ゴールとして学習発表会を設定したことで、児童が意欲的に学習に向かっていた。

＜課題＞

学んだことをアウトプット(地域のお店や、掲示板にポスターを貼る・チラシを配る等)をする基盤が、整っていなかった。

5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・ゲストティーチャーとの連携を図ること。学習発表会后に、児童がポスターを貼る・チラシやビラを店先に置いてもらう等の活動の協力依頼が、児童からできるように指導する。
- ・

6. 令和7年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

身に付けた資質能力を用いて、課題を解決する中で多様な視点から考えることができる児童